

# 防災ひとくちメモ

## 低温注意報について

上川・留萌地方では、1月下旬から2月下旬が一年で最も寒い時期となります。気象台では低温による農作物の被害（夏期）や水道管の凍結・破裂などによる被害（冬期）が発生するおそれがあるときに「低温注意報」を発表します。具体的な発表基準は、4月から6月と8月中旬から10月までは、平均気温が平年より6℃以上低い、7月から8月上旬は気温が14度以下が12時間以上継続など、稲作などの農業関係に影響を及ぼす気温が基準となっています。また、11月から3月までは最低気温が平年より12℃以上低いと予想する場合に発表しています。冬期間の低温は、上空に強い寒気が入る、冬型の気圧配置が緩み内陸部を中心に晴れて地表面の熱が奪われる放射冷却現象が起こるなどの原因で発生します。これまでの最低気温の

記録は、旭川－41.0℃（1902年1月25日）と内陸部では－30℃以下、留萌－23.4℃（1985年1月25日）と海岸部では－25℃前後となっており、1月下旬から2月下旬に低温注意報が発表されると、厳しい冷え込みが予想されますので水道管の凍結・破裂などに十分注意が必要です。



### ◆お問い合わせ先◆

旭川地方気象台

☎ 0 1 6 6 ( 3 2 ) 7 1 0 2

<https://www.data.jma.go.jp/asahikawa/index.html>



## 地方創生アイデアコンテストでの天塩高校生、生成 AI 活用

昨年12月、内閣府が主催する「地方創生☆政策アイデアコンテスト2023」が開催され、天塩高校の2年生からなるチームが北海道代表として最終審査会に出場しました。このコンテストは、地域経済分析システム（RESAS）上のデータを活用し、地方創生の施策や地域の課題解決に向けたアイデアの提案を行うものです。今回、北海道代表に選ばれた天塩高等学校6班のテーマは「夕日プラスα?!」。天塩高校と筑波大学が連携して地域について学ぶ、高大連携ワークショップを通して生まれたアイデアをもとにして発表しました。天塩町の美しい夕日を活かした特産品開発を目指し、商品などの「モノ」に限らず、体験の提供といった「コト」にも着目した発想が生まれ、天塩川河川公園への写真映えするブランコの設置や町外の人に天塩の魅力を伝えるオロロンラインバスツアー、夕日をモチーフにしたスイーツの開発といったアイデアが提案されました。まだ実現していないこれらのアイデアのイメージを文字だけで明確に伝えるのは難しいかもしれません。そこで1つの手段として、最近耳にする機会も多い生成AIの技術を用いてアイ



▲地方創生☆政策アイデアコンテスト最終審査会での天塩高校生発表の様子

デアを具体的な画像として表す手法を紹介し、実際に生徒の方々に試してもらいました。当日の発表スライドでは夕日を背景にしたブランコや新たな特産品の候補となるスイーツのイメージ画像が提示され、聞き手にとって興味深い内容になったと思います。今回代表となった班だけでなく2年生の各班から生まれた様々な地域活性化のアイデアが、今後どのように発展していくのか楽しみです。（野口）



YouTube

◀こちらから、天塩高校生が内閣府・地方創生☆政策アイデアコンテスト最終審査会での発表の様子をご覧になれます。